

～ 4年生校外学習 ～

15日(金)、4年生が校外学習に行ってきました。4年生の保護者の皆様には、早朝よりお弁当の準備をありがとうございました。おかげさまで、子どもたちは全員参加し、元気に帰ってくることができました。「住みよいくらしをつくる」という単元の中で、「水はどこから」「ごみのしやりと利用」について学習していますが、より理解を深めるため、中西条浄水場とエコクリーンピアはりまの2つの施設を見学しました。

学校でも家でも、水道があれば水は出てきます。私たちはそれが当たり前になっています。いくらでも、無限に出てくるかのように錯覚しています。地球上に存在する14億km³の水のうち、97.5%は海水です。淡水はわずか2.5%しかありません。そんなわずかな淡水のうち70%は氷や氷河なので、生活水として使用できません。さらに凍っていない淡水のほとんどは掘削が難しい地中深くに流れる地下水です。つまり、私たちが利用できる水は、河川や湖、地中の浅いところに存在するわずかな水のみで、地球上の水のたった0.01%。1.5Lのペットボトルに目薬数滴をさすような量でしかありません。そんな貴重な水は浄水場で作られ、水道を通じてくるのです。

ごみの処理についても同じです。要らなくなったらごみとして捨てていますが、「可燃ごみ」をできる限り減らして「不燃・粗大ごみ」の中から再生可能な資源を取り出すといった循環型社会への転換が大切であることに気付きます。

今年も4年生の校外学習を機に、環境への意識を高めていきたいとあらためて思いました。

西神吉っ子の一コマ

